

第1回 第二期武蔵野市市民活動促進基本計画策定委員会 議事録

- ・日 時 令和3年4月27日(火曜日)午後6時～8時20分
- ・場 所 武蔵野市役所 412会議室
- ・出席者 朝岡委員長、見城委員、千種委員、町田委員、森副委員長、渡邊委員、市川委員、北川委員、小島委員(名簿順、敬称略)
- ・傍聴者 0名

1 開会

【事務局】緊急事態宣言が出ている中、ご多忙にもかかわらずご出席いただきありがとうございます。このような状況ですとオンラインでの開催も選択肢に入ってくると思いますが、今日は初回ですので対面での形で開催いたしました。窓や扉を常時開け換気を行い、机上にはパネルを置き、感染防止に注意しながら進めたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

(1) 委嘱状交付

感染対策のため机上配布

(2) 市長挨拶

【松下市長】緊急事態宣言下、お忙しい中、委員をお引き受けいただきありがとうございます。「武蔵野市市民活動促進基本計画」は今年度が最後となりますので、次年度からの計画を皆様に議論および策定をしていただくこととなります。

武蔵野市では、昨年4月から、10年間の計画である「第六期長期計画」がスタートし、同時に「自治基本条例」も制定され施行されています。どちらにおいても、武蔵野市の市民自治の発展に向け、市が大切にしてきた「市民参加」と「協働」という2つを基本原則として定めています。「市民参加」と「協働」は市民活動が基本となると考えていますが、武蔵野市ではコミュニティ協議会を始めとする地域のコミュニティ活動や、福祉・防災・子育ての活動などさまざまな市民活動が活発に行われています。市民活動を推進する拠点としての「武蔵野プレイス」も今年で10年目という節目を迎えます。

「協働」の取り組みもさまざまな成果を上げてきていますが、コロナ禍においてはいろいろな活動が思うようにできません。コロナは人と人とのつながりやふれあいを妨げ、できるだけ遠ざけなければならないという活動する上での多くの制約をもたらしています。先がなかなか見通せない中では、大切な市民活動を、オンラインや今までとは違った形で開催するなど、新しい発想を基に取り組んでいかなければなりません。制約がある中でも、感染防止と市民活動を両立させ市民の日常生活を継続させていくことが大切であり、市としてもさまざまな対策を講じながら支援をしていきたいと思えます。

市民活動においては参加者の固定化や高齢化が問題となっており、いかに新しい方に加わっていただくかが課題です。また、ネット上での活動も活発に行われていますので、そういった新しい形のコミュニティにも注目しながら「市民活動促進基本計画」を皆様の方で策定していただきたいと思えます。「誰もが安心して暮らし続けられる魅力と活力があふれるまち」を第六期長期計画の基本としており、皆様と共に、地域とのつながりを持って一人一人が安心して暮らせる魅力と活力が感じられるまちにしていきたいと思えますのでよろしくお願いいたします。

(3) 委員自己紹介

(4) 事務局紹介

— 市長退席 —

配布資料の確認

(5) 正副委員長選出

委員会設置要綱の第5条より委員長は互選により選出することから朝岡委員が推薦され、副委員長は委員長の指名により森委員が選任されました。

【委員長】 10年ぶりに武蔵野市の委員会に参加することになりましたが、今回は委員長ということで緊張しております。委員の皆さんには空気を読んでいただくことなく、少々長く話されても構わないと思いますので、自由闊達に意見を出していただき進行していきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

【副委員長】 自分自身のために勉強になるのではないかと思います委員会に参加しましたが、やることを一つずつやっつけていこうと思っていますのでよろしくお願いいたします。

2 議事

(1) 委員会の進め方について

【委員長】 委員会の進め方について、事務局より説明をお願いします。

【事務局】 (資料9、3、4について説明)

【委員長】 資料9に続き、資料3で委員会の運営要領(案)を、資料4で策定スケジュール(案)を説明していただきました。

運営要領については、コロナ禍において第11条が新たに付け加わったということです。また文言としては記載されてはいませんが、第4条のところに「マスクを付けていない人」が入ると思いますが、これは(4)を援用すればいいのではないのでしょうか。この要領を基に臨機応変に協議しながら進めていきたいと思っております。

スケジュールについては、本日から第3回までは決まっていますが、その後は日程を調整しながら開催していきます。回数をあまり変更することはできませんが、予備日が設定されていますので、議論が非常に充実した場合には1回増やす可能性もあります。ただ、期限は守るということで、来年の2月には必ず市長に答申を出さなければなりません。ご質問ご意見等はございませんか。

【G委員】 会議は、リアルとオンラインが同時進行することはありますか。

【事務局】 対面で参加可能な方とオンラインを希望される方が分かれる場合は併用して行うことはあると考えています。具体的な進行方法は委員長と相談しなければなりません。イメージとしては、対面での参加者も自身のパソコンあるいは市から貸し出すタブレットを前に置きながら、オンラインでの参加者の顔を見ながら進めていきたいと思っております。

【委員長】 事務局には用意をしておいていただかなければなりません。臨機応変に対応していくしかないと思っています。第2回、第3回が結構微妙なタイミングですので、このまま緊急事態宣言により感染が収束するかどうかの状況を見ながら開催方法を工夫したいと考えます。今のところは対面を想定しているということですが、感染状況や皆さんの希望もありますので、オンラインでの参加の準備を事務局で進めていただきたいと思います。対面とオンラインのハイブリッドにした場合、どちらにウェイトを置くかで状況が違ってきます。対面が主で一部の方がオンラインである場合は、対面の方が皆でパソコンを開くのはおかしいので、何らかの工夫をしていただき、オンラインの方だけつなぐような形になると思います。逆にオンラインが主である場合は、事務局と正副委員長は調整しなければなりませんので会議室に来て、他の方はオンラインで接続することになると思います。どのように開催するかを前の会議で確認できないため、方法は工夫していくということをご了承ください。

【事務局】 運営要領の第10条(2)で「発言者の氏名は原則として非公開」とありますが、正副委員長については「委員長」「副委員長」と、他の委員についてはアルファベットで「A委員」

等と記載し、同じ発言者であることがわかるような表記にしたいと思います。

【委員長】議事録の公開方法についてですが、正副委員長は匿名にしてもわかってしまいますので「委員長」「副委員長」と記載し、それ以外の委員については同じ方が発言しているかどうか混乱しないように匿名でアルファベットにより記録するという方法にしたいという提案ですがよろしいですか。

— 了承 —

【事務局】会議録作成のために録音させていただきたいと思いますのでご了承ください。

【委員長】運営要領およびスケジュールの案について、他に何かございますか。運営要領については、特段ご意見がないようでしたらこれで確定したいと思います。スケジュールについては、第4回以降はかなりフレキシブルに対応せざるをえませんが、開催方法を含め、これを基本としながら皆さんと相談して進めていきたいと思います。よろしいでしょうか。

— 了承 —

それでは、運営要領とスケジュールの「(案)」を取り、進めていきたいと思います。

(2) 武蔵野市の市民活動促進施策の現状と評価について

【委員長】武蔵野市の市民活動促進施策の現状と評価について、事務局より報告および説明をお願いします。

【事務局】(参考資料 武蔵野市市民活動促進基本計画改定計画(概要版)、資料5-1、5-2、6、7について説明)

【委員長】本議事に関しては、委員全体での認識を共有するため、意見というよりは質問していただくことが重要であると考えます。しかし、おそらく今すぐに質問することは難しいでしょうから、後に質問等があれば聞き直していただきたいと思います。特に問題がなければ、ひとまず本議事は終了しますが、後ほどじっくりとご確認ください。

(3) アンケート調査について

【委員長】アンケート調査について、事務局より説明をお願いします。

【事務局】(資料8-1、8-2について説明)

【委員長】アンケートの調査方法と調査内容とに分けてご意見を伺いたいと思います。調査方法に関しては、資料8-2の冒頭に記載してある通り、基本的には紙媒体とオンラインのアンケートフォームから回答していただくということですが、どのように使い分けるのですか。

【事務局】市が住所とメールアドレスを両方把握している場合には、郵送とメールの両方で団体に対しアンケートをお送りします。メールアドレスのみを把握している場合にはメールでのみお送りします。

【委員長】およそ400の団体に対し、メールアドレスがわかる場合にはオンラインで回答していただき、住所もわかる場合には紙媒体もお送りし、紙媒体での回答も可能であり選択していただくという方法で集計するそうですが、ご意見ご質問はございませんか。

【G委員】本アンケートを試しに回答してみましたが、1時間くらいかかってしまいました。メールでの回答もかなり大変なのではないでしょうか。設問が参考になるような内容にまとめられれば協力したいと思いましたが、どれくらい返ってくるのかが心配です。

また、400団体あるということですが、重なっているものが多いのではないのでしょうか。重なっている団体を外すといくつくらいあるのでしょうか。武蔵野プレイスと市民社会福祉協議会とNPO法人のいずれにも登録していない団体もあると思いますので、市民活動の実態を把握するの

は難しいのではないのでしょうか。

【事務局】市民活動団体の実態について網羅的把握はできていないため、市と何らかの関わりがありこちらが情報を持っている団体にしか送ることはできません。市の長期計画策定において意見交換にお招きした団体は800数十団体でした。そこから、民間企業や事業者関係を除くと700～800程度の市民活動関係の団体となります。ただ、武蔵野プレイスと市民社会福祉協議会の登録団体とNPO法人の団体とは重複もあるため、1団体には1通のメールないし郵送を届けたいと思います。現在、武蔵野プレイスと市民社会福祉協議会とNPO法人の登録団体は300弱くらいですので、登録していないコミュニティ協議会や地域社会福祉協議会等の地域の主たる活動団体を加えて400に収まるようにしていきたいと考えています。

【委員長】事前に事務局で把握し、重複しないように送るということでいいですか。また、800団体のうちおよそ半分の400団体に送るということですが、精度の問題や回収率の問題も出てきますが、学術的な調査ではなく計画を策定するための調査ですので、支援を求めている内容がわかればいいのではないかと思います。あまり回収率が低いようではよくありませんが、多少の偏りがあっても、市民活動団体のニーズが把握でき、漏れがないようにし、特徴が出てくれば、あとは皆さんのご意見を聞いたりヒアリングをしたりすることでフォローできるのではないのでしょうか。

【C委員】アンケートの回答が大変であるということは、それだけ問題意識を持っている団体や課題を抱えている団体が多く回答してくるのでないのでしょうか。それは現状を知る上での1つの指標になり、回答に偏りが出たとしても、全体の動向を掴むことが目的ではないため問題ないと思います。

【委員長】回収率は設問数の多さに関係してきますので、調査内容のところで議論していただきます。調査方法については、紙媒体とオンラインの両方を用い、団体の選び方は重複がないようにバランスよく調査対象を選ぶように配慮していただくということによろしいですか。

【C委員】アンケートフォームで回答していただく時の見え方が気になります。例えば、問1は項目数が多く画面に収まり切れないためスクロールしながら見ていかなければなりません。それは一覧性に欠け答えにくく、紙媒体のほうが一覧できるので答えやすいのではないのでしょうか。アンケートフォームを使用する際には、回答のしやすさという視点も考慮していただきたいと思います。

【委員長】アンケートのボリュームがあればあるほど回答のしやすさが大事になると思いますのでご検討ください。調査内容については、資料8-1により概要がわかりますが、新規項目がかなり増えています。「○活動内容について」ではコロナに関して7から2項目増え、「○情報・ICT等の活用について」の項目はすべて新しいものです。「○武蔵野プレイスについて」と「○市の施策や今後の取り組みについて」は前回に比べてボリュームが増えています。本来であれば項目ごとに意見をお聞きしたいところですが、全体を通して聞き方も含め気づいたことはございませんか。

【副委員長】アンケートを送る団体数を伺うと、全ての団体が活動しているのかどうか気になります。団体の活動実態の有無や活動回数等を把握したほうがいいのではないのでしょうか。

【事務局】団体の活動状況についての項目として入れたいと思います。

【副委員長】メールで回答する場合、回答の途中で保存することはできるのですか。1時間かかるということでは最後まで回答し切れないかもしれません。

【事務局】Googleフォームを用いて行う予定ですが、途中の一時保存は難しいようですので確認します。

【委員長】メールアドレスしかわからない団体はどのくらいあるのですか。

【事務局】精査しているところですが、100以上になるかと思います。

【委員長】Googleフォームを使用するということですが、アンケートそのものを10分程度で答えられるように小分けにし、1項目ずつ送信するようにはどうでしょうか。回答し忘れの項目

があっては困りますが、Googleフォームは使い勝手の良さとともに保存できない問題もあるため、回収率を上げる工夫をお願いします。

【G委員】アンケートの話からは少しそれますが、次期計画を考えるにあたり、資料の説明からは、登録団体との協働を図る計画となっているように見えました。団体という形ではなく市民活動を行っている人たちによるSNS等の新しいコミュニティが、若い人を中心にたくさん生まれています。そういった人たちは、武蔵野プレイスや市民社会福祉協議会のことをあまり知らず、これから先の市民活動を考えた時に、おそらく市民活動団体と呼ばれるものの内容自体が変化していくと思われます。団体ではなく、今のニーズを把握し登録していけるような、市と直接協働できる新たなコミュニティの実態を把握できたらいいと思います。

【事務局】団体には加入せず個人で活動しており、広域的な要素があり市民活動につながる可能性があるコミュニティはこれからも増えていくのではないかと思います。しかし、そのニーズ把握をどのように行うかということは事務局ではまだ構想ができていません。例えば、パブリックコメントの際に広く周知するなど、個人にも関心を持ってもらえるような訴え方ができるかが課題であると思います。

【委員長】団体に対してはアンケートを用いて意見を聞きやすく、同じ方法を個人に対して行うのは非常に難しいと言えます。世論調査のようにサンプルを抽出し無作為に市民アンケートを行うという方法はありますが、今回はそういう方法は予定していないため、団体を対象に行うこととなります。市民活動を促進する上では、現行計画においても「市民活動の裾野の拡大」が重要な項目として挙げられているため、事務局による各部署への問い合わせだけではなく、本委員会の議論の中で市民活動をどう広げたらいいか積極的に発言していただき、計画に盛り込んでいくのが望ましいと考えます。いずれにしてもアンケートを行う意味はありますので、団体の支援施策についての意向調査と考え、そこから漏れている市民活動をどう拾うかについて知恵をお貸しいただきたいと思います。本会議が終了するとアンケートが開始されてしまいますので、聞き方やおかしい項目がありましたらこの場でご意見ご質問を伺いたいと思います。

【A委員】本アンケートは計画策定のために傾向をみるというものかもしれませんが、武蔵野市内の市民活動の現状をある程度データベース化できるという側面もあります。また、そのデータを共有することで、新たに活動してみたいという人たちの相談窓口にも使えるのではないのでしょうか。そういった方たちに門戸を開いていく意思があるかどうかを各団体に確認しておく必要があると思います。何か福祉に関わっていきたいと思った時に、武蔵野プレイスや市民社会福祉協議会、市民活動推進課等に行けばどんなことをやっているのかがわかるということが裾野を広げる大きな要素になるのではないのでしょうか。せっかくアンケートを行うのであれば、次の活用もできるようにしていただきたいと思います。

【委員長】これは重要な論点で、これだけの予算と時間をかけて実施するわけですし、アンケートの内容も各段階でかなり詳しくわかるようになっていきます。ただ、アンケートは原則として分析するには匿名性が必要です。アンケートに書かれた回答を市民に公開するかどうかという問題が出てくるとは思います。アンケートの協力依頼文の中にそのような文面がありません。団体が公開してもいいというものがあれば公開し、市民が参照したり活用したりできるようにしてはどうかという提案ですが、その可能性はありますか。

【事務局】回答を公開してもよいかという確認の記述がありませんので、文言を検討し入れたいと思います。丸を付けるような項目は統計的な処理となりますが、自由記述等は他の団体の参考にもなると思われますので、活用許可の確認が取れるような記述を協力依頼文のところに入れたいと考えます。

【E委員】市民活動担当部でも市民意識調査を行っており、本アンケートと近い形です。自由記載については結構ヒントとなるものがありますので、同じような意見を取りまとめて要旨をまとめ、公開していくことがいいと思います。

【委員長】アンケート調査の項目1「貴団体の概要について」と2「貴団体の活動内容について」

は、団体にとっても積極的に公開してもらい、データベース化して市民や他団体に見てもらおうほうがメリットがあると思います。項目3以降については公開してもあまり意味がありませんので、1と2の部分を公開してもよいかの確認をアンケートの中で取っていただき、了解を得られた団体の1と2をデータベース化し市民と共有できるようにすることを考えていただくということによってよろしいですか。

アンケートの後半はコロナの影響もあり大分新しい項目が入っていますが、ご意見ご質問はございませんか。

【D委員】項目2「貴団体の活動内容について」の問2で、「新型コロナウイルス感染症がまん延する前の状況」とありますが、他の設問のように「コロナ前」や「コロナ禍」ではなく「まん延する」という表現を用いたのはなぜですか。わかりにくいのではないのでしょうか。

また、問4で「活動を立ち上げる際に」とありますが、「活動している中で」でもいいのではないのでしょうか。他地区で立ち上げ移ってきた方もいますし、立ち上げた時だけではなく幅広く現状も把握するという意味では文言をそのように変えてもいいのではないのでしょうか。

提出期限が5月31日までというのは決定ですか。

【事務局】期限については、6月の次回委員会に速報を提出することを考えると5月末で期限を切りたいと思います。

【D委員】アンケートを今から配布し連休明けに届いたとしても、答えられるのは2週間くらいしかありません。5月と11月は助成金申請の多い時期で、新年度に入ってから体制づくりもあり、報告をし、計画も立てなければなりません。小さな団体は常勤者も少なく、コロナ禍により緊急事態宣言も発令されたりして、1年のうちで一番忙しい時期だと思われれます。アンケートはいろいろな団体や自治体等から送られてきます。スケジュールに合わせて期限を切らなければならない事情はわかりますが、受け取る団体側からするとかなり厳しいです。短い期間にこんなに多くの設問を出されると答えられず不愉快に感じるのではないのでしょうか。もっと回答期間を長くし細切れの時間でも答えられるような形にしなければ、後回しにされてしまうと思います。

【委員長】アンケートは、団体が答えやすいような工夫をし、必ずしも第2回委員会に間に合わせなくてもいいのではないのでしょうか。短期間に答えていただくのは無理がありますし、回収率が低い場合には個別に再度連絡していただかなくてはならないかもしれません。少し遅らせるということによろしいですか。

— 了承 —

問4、5の表現についてご意見がありましたがいかがですか。

【事務局】現状の課題を出すという趣旨では大切な視点ですので変更したいと思います。

【事務局】資料8-1を併せてご覧いただきたいのですが、「○活動内容について」の「4活動を立ち上げる際の課題」と「5コロナ前の団体活動を継続する上での課題」を10年前の調査と経年比較したいという狙いで設けました。10年前にある程度同じことを聞いており、そういった視点から、アンケートの問4は「活動を立ち上げる際に課題だったこと」について把握したいということで、問5については、コロナ前から課題だったことは何かを聞くことを考えました。今直面していることについてはコロナ後の課題であると思いますので、問7と8で活動する上での新型コロナウイルスの影響やそれらへの対応および希望する行政の支援を聞いています。10年前との比較にどこまで重きを置くかと、コロナの影響を聞くことにどこまで重きを置くかのバランスが非常に難しかったため、改めて協議していただきたいと思います。

【委員長】コロナの影響が入ってきたため複雑になってきたのですが、現在の課題について聞く項目はあるのですか。

【事務局】現在の課題については問7と8で聞いています。

【委員長】問6と8が煩雑であると思います。どちらかという、行政に対して要望したいこと

や支援して欲しいことを自由記述形式で書くと簡潔に早く書けると思います。また、コロナの影響は出てしまっているのに、コロナ前の課題を聞いて意味があるのでしょうか。現状については問8で答えていただければいいと思います。表現もわかりにくいので修正していただくということでしょうか。

問4については、経年変化を見たいということで、引き続き新しい団体について聞きたいということであると思うので、それがわかるように修正してください。

問5についてはいかがですか。

【E委員】市民意識調査を行った時にはコロナの部分だけを別途抜き出した形を取っていますので、経年変化については経年変化でまとめ、コロナについてはコロナの前と後でそれぞれにまとめてはどうでしょうか。

【委員長】そのほうが答えやすいですか。

【D委員】ページをめくりながら考えていったのですが、コロナの前や後に思考が前後してしまい、「まん延」とはいつのことかなど表現もわかりにくく、言葉も統一されていません。アンケートは回答する側のためであり、回答する際に作成者の意図を汲み取りながら考えなければならぬのは大変で、自団体の回答のみに力を注ぎたいと思います。10年前には回答していませんし、新しい方はなおさら答えにくいと思います。細かい情報をまとめたほうが活用できてその後につながると思います。答えるのがあまりに大変では次回のアンケート調査につながるのでしょうか。やはりアンケートは、少し物足りないものになったとしても、作成側が大変になったとしても、市民活動をする人のためのものであって欲しいと思います。

【委員長】それでは、コロナの前と後を行ったり来たりするとわかりにくいので、コロナ前の状況を聞く項目とコロナ後の状況を聞く項目を分け、すっきり答えられるように工夫していただきたいです。各項目についてはいろいろな表現が出てくるとわかりにくいので、令和元年度（2019年度）がコロナ前ですので、年度を前面に出して質問するようにし、コロナ後は2020年度後の現在としたほうがわかりやすいと思います。

また、問6や問8のような設問は、書いてあれば便利かもしれませんが、分析する際には使い勝手がいいとは限らず分析し切れない部分がありますので、できれば簡略化していただきたいです。

【副委員長】問7の「5 支援者の状況がわからない」の「支援者」とは誰を指しているのですか。

【事務局】団体の会員を想定しています。

【委員長】わかるように修正してください。

それでは、一通りご覧いただき、大分組み換えもありましたので、もう一度事務局から皆さんへ返していただき、議論する間はありますので全体については一任していただき、細かい字句や表現について気になることがありましたら事務局に言っていただき修正できるものは修正することによってよろしいですか。

— 了承 —

今の議論を踏まえ、事務局と委託業者の方に引き取っていただき、アンケート調査を実施していただきたいです。

(4) 意見交換

【委員長】次回の日程について、事務局より説明をお願いします。

【事務局】資料4の通り、次回は

6月29日（火）19時～21時 412会議室

資料は今回同様メールでお送りします。

本日の資料はこちらの机上のボックスに置いていただければ各委員用として保存いたします。

【G委員】オンラインでの開催になるかどうかはどのくらい前にわかりますか。

【事務局】必ず全員が対面でなければならないということにはなりませんので、オンラインの希望が生じた段階で事務局にご連絡いただきたいと思います。

【委員長】事務局の判断として、原則対面にするのかオンラインにするのかの判断が求められるわけですが、それは早めに言っていただき、対面であっても皆さんの中にオンラインを希望される方がいた場合には個別に対応するようにしていただきたいと思います。

【C委員】2点リクエストがあるのですが、1点は「自治基本条例」の中で市民協働がどのように記述されているかの資料を早い段階で作成していただけないでしょうか。

もう1点は、市民と直接触れ合っている武蔵野プレイスの市民活動フロアのコーディネーターの方たちが、現在の市民活動推進のあり方についてどのように認識されているのかを率直な意見として伺いたいので、機会を設けていただけないでしょうか。

【事務局】1点目の「自治基本条例」については、ガイドブックの冊子も含めてお送りいたします。

2点目のコーディネーターについては、ワーキングチームの一員として武蔵野プレイスの係長級の職員が入る予定ですが、その職員よりも窓口で応対しているコーディネーターとの意見交換をされたいということですか。あるいは、ワーキングスタッフが本会議に参加し、何人もいるコーディネーターの代弁役として説明して欲しいということですか。

【C委員】コーディネーターから直接話を聞きたいです。

【委員長】第4回目以降はまだ日程等も決まっていないため、第4回目以降の中で、会場として武蔵野プレイスを使わせていただき、会議を早めに終了し、直接話を聞く場を設けるというのはいかがでしょうか。あるいは、会議時間外に希望者が武蔵野プレイスに集まり、話を聞いたり見学したりするという2通りの方法を検討していただけないでしょうか。おそらく委員会の会場が市役所でなければならないという理由はないと思います。

【事務局】承知しました。

【委員長】それでは、本日は終了したいと思います。お疲れ様でした。

以上